

野菜病害虫発生予察情報

第12号

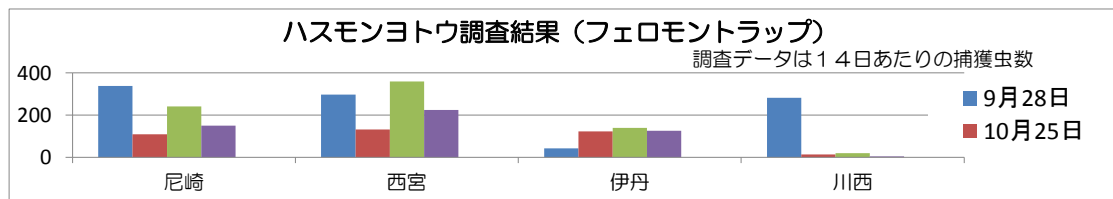
発行：阪神地区営農振興協議会 農業技術分科会 南部分科会

調査日 平成30年12月6日(木)

調査地区 尼崎・西宮・伊丹・川西

本年は暖冬傾向。引き続き病害虫の発生にご注意ください!!!

巡回調査の結果、ほうれんそう、こまつな等でコナガ、ハスモンヨトウ、アオムシなど鱗翅目の被害が見られました。また、ねぎでハモグリバエ、アザミウマの発生も見られました。ハスモンヨトウのトラップ調査では、全体的に減少傾向にありますが14日間換算で、尼崎・西宮では150匹以上の飛び込みがありましたので、今後も引き続き食害に注意しましょう。



品目	発生病害虫	薬剤名	希釈倍数・使用量	使用時期	使用回数
ねぎ	ハモグリバエ類	アフアーム乳剤	1,000倍	収穫7日前まで	3回以内
ほうれんそう	ハウレンソウ ケナガコナダニ	カスケード乳剤	4,000倍	収穫3日前まで	3回以内
こまつな	ハスモンヨトウ	アニキ乳剤	1000~2000倍	収穫前日まで	3回以内
レタス	菌核病 (今後の発生に注意!)	アフエットフロアブル	2000倍	収穫前日まで	3回以内
キャベツ					
はくさい					

※ 必ず農業のラベルを確認してから使用基準を守って使用するようしましょう

今後の注目病害虫 菌核病

【菌核病防除について】

<被害の様子>

- キャベツやレタス、ブロッコリー等に発生します。
- 初期症状は下葉の葉柄基部近くに水浸状の病斑が生じ、しおれます。その後、結球部に進展し一部または全体が軟腐します。
- 暖冬で雨の多い年に発生が多くなります。

<対策>

- 降雨後にしっかりと排水を行いましょ。
- アフエットフロアブルなどの薬剤で予防的に防除を行いましょ。



キャベツ菌核病の被害

防寒対策に被覆資材を活用しましょ!!!

これからの低温期に向けて作物の凍結防止や生育促進のため、被覆資材を利用しましょ。ただし日照量が少ない時期となるため光線透過率の高い被覆資材を使用しましょ。

1) パスライト

防霜性に優れ生育を促進します。通気性・通水性・吸湿性にも優れ、さらに適度な保温性がある資材です。透光率90%と光をよく通し、生育障害の心配もほとんどありません。発芽促進にも役立ちます。ほうれんそう、こまつな、しゅんぎく、レタス、はくさい、だいこん、かぶなど多くの作物で使用できます。被覆方法にはべたがけや浮きがけがありますが、浮きがけの方が、保温性が高く、作物の傷や葉折れも少ないです。

2) パオパオ

パオパオ90はパスライトと同様の特長がある資材です。透光率はパスライトよりやや優れています。青パオパオは、太陽光の光質をコントロールし赤色光に比べ遠赤色光を多く通すことで、長日性の葉物野菜（ほうれんそう、こまつな、みずななど）で生育促進が期待できます。



【葉物野菜でのワリフ活用例】

3) ワリフ

透光率は約95%と、パスライトやパオパオよりも高く夜間の保温力が優れています。ほうれんそうやこまつななどの葉物野菜での使用に適しています。

JA兵庫六甲のホームページにカラーで掲載しています。

HPアドレス[<http://www.jarokko.or.jp/> 農業情報→極めよう→センターだより→より検索下さい]

お問い合わせはJA兵庫六甲 お近くの営農支援センター・阪神農業改良普及センターまで

野菜病害虫発生予察情報

第10号

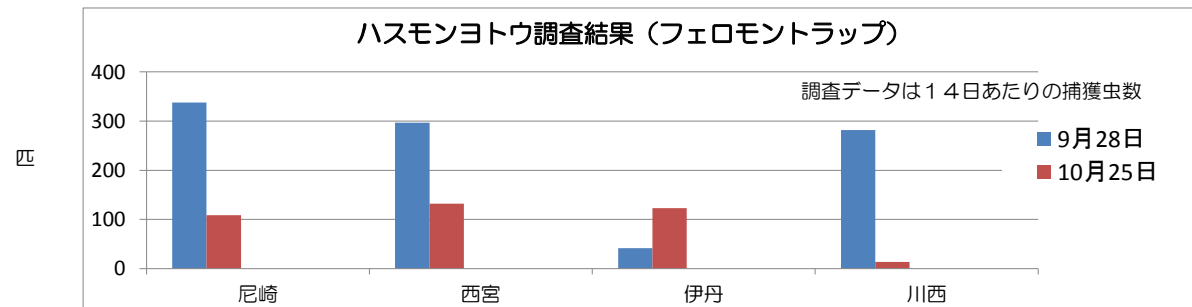
発行：阪神地区営農振興協議会 農業技術分科会 南部分科会

調査日 平成30年10月25日(木)

調査地区 尼崎・西宮・伊丹・川西

引き続き鱗翅目害虫の被害にご注意ください!!!

巡回調査の結果、白菜、キャベツ、ブロッコリー等様々な野菜でコナガ、ハスモンヨトウ、アオムシなど鱗翅目の被害が多く見られました。また、水菜等にアブラムシの発生も見られました。ハスモンヨトウのトラップ調査では、成虫の捕獲数は減少傾向にありますが、尼崎・西宮では14日で100匹近くの飛び込みがありましたので、今後も引き続き食害に注意しましょう。



品目	発生病害虫	薬剤名	希釈倍数・使用量	使用時期	使用回数
コマツナ	コナガ	プレバソフフロアブル5	2,000倍	収穫前日まで	2回以内
水菜	アブラムシ類	スタークル顆粒水溶剤	3,000倍	収穫3日前まで	2回以内
ほうれん草	ハスモンヨトウ	プレバソフフロアブル5	2,000倍	収穫前日まで	3回以内
キャベツ	アオムシ	アフーム乳剤	1,000~2,000倍	収穫前日まで	3回以内

※ 必ず農薬のラベルを確認してから使用基準を守って使用するようにしましょう

今後の注目病害虫 アオムシ

【アオムシについて】

5月～6月と秋に発生が多い

ふ化幼虫は表皮を残して食害するが、成長すると葉脈だけ残して食害し、多発生時には丸坊主になり、キャベツでは結球しないこともある。

【防除について】

若齢幼虫期に防除すると被害は少ない。薬剤に対して弱いが、発生時期が長いので数回防除が必要である。



今後の注目病害虫 アブラムシ類

【アブラムシ類防除について】

<アブラムシ類の特徴と被害の様子>

- 幅広い種類の農作物を加害します。
- 吸汁により、作物の生育を阻害します。
- ウィルス病を媒介します。

<対策>

- 防虫網や寒冷紗で成虫の侵入を防ぐ。
- 生息地となる周辺雑草の草刈りを行います。
- 窒素肥料をやり過ぎないように気を付けましょう。



JA兵庫六甲のホームページにカラーで掲載しています。

HPアドレス[<http://www.jarokko.or.jp/> 農業情報→極めよう→センターだより→より検索下さい]

お問い合わせはJA兵庫六甲 お近くの営農支援センター・阪神農業改良普及センターまで

野菜病害虫発生予察情報

第9号

発行：阪神地区営農振興協議会 農業技術分科会 南部分科会

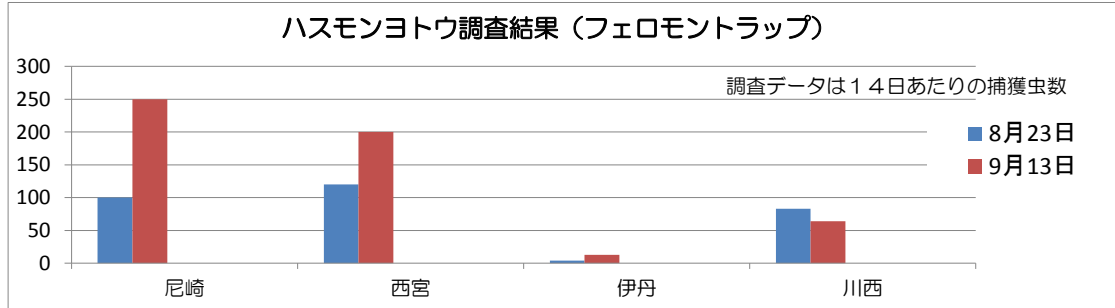
調査日 平成30年9月13日(木)

調査地区 尼崎・西宮・伊丹・川西

ヨトウムシ類の増加にご注意ください!!!

巡回調査の結果、コマツナでハイマダラノメイガ（ダイコンシンクイムシ）・キスジノミハムシ、大根菜においてはダイコンサルハムシの被害が多く見られました。ハスモンヨトウのトラップ調査結果では、西宮・尼崎で14日間に200頭を超える成虫の飛び込みが見られたので、今後幼虫による葉の食害等に十分注意して下さい。

台風21号の強風により野菜やパイプハウスに被害が出ました。今後も台風発生・接近の可能性があるので、事前・事後対策はしっかり行いましょう。



品目	発生病害虫	薬剤名	希釈倍数・使用量	使用時期	使用回数
ホウレンソウ	シロオビノメイガ	ティアナSC	2500~5000倍	収穫前日まで	2回以内
ネギ	さび病	ジマンダイセン水和剤	600倍	収穫14日前まで	3回以内
コマツナ	白さび病	ランマンフロアブル	2000倍	収穫3日前まで	3回以内
	ハイマダラノメイガ ヨトウムシ類	スピノエース顆粒水和剤	2500~5000倍	収穫14日前まで	2回以内
	キスジノミハムシ ハスモンヨトウ	アニキ乳剤	1000~2000倍	収穫前日まで	3回以内
葉だいこん (だいこん)	ダイコンサルハムシ キスジノミハムシ	アクセルフロアブル	1000倍	収穫7日前まで	2回以内

※ 必ず農薬のラベルを確認してから使用基準を守って使用するようにしましょう

今後の注目病害虫 ハスモンヨトウ

《症状》

葉裏に生息し、葉を食害します。被害部は、若齢幼虫の頃は表皮を残して白色かすり状になりますが、多発時には葉脈だけ残しレース状になります。アブラナ科野菜以外にもレタス、エダマメ、サトイモ、果菜類など多くの野菜を食害します。

《虫の特徴》

卵は数百個が一塊となって葉に産みつけられ幼虫は6齢を経過し成長すると40mmにもなります。被害は6月頃から見られ、8月下旬から10月まで被害が増加します。

《防除のポイント》

卵からかえった若齢幼虫（1~2齢）は集団となって葉を食害しますがその後成長するに従い分散していくので、若齢のうちに葉裏に薬剤がよくかかるように防除を行います。また、卵塊を見つけた場合は、直ちに処分してください。

若齢幼虫の集団



卵塊(これで数百個の塊)

台風や大雨の対策について

①事前の対策

- 排水溝、施設の再点検をしましょう。特に排水溝周辺の草刈りを実施し、刈草等を除去し、スムーズに排水が出来るようにしましょう。
- 台風直撃が予測され、作物が小さい場合、寒冷紗等のバタがけをして風害を軽減しましょう（台風通過後はすぐに除去します）。

②事後の対策

- ほ場に雨水が停滞している場合は、早急にほ場の排水に努めましょう。
- 作物の早期回復を図るため、液肥の葉面散布等を行うと効果的です。

《施設栽培における事前の点検》

- マイカー線の緩みがないか、押さえのラセン杭や鉄筋が固定されているか、天窓部分が強風で開いてしまわないか等を再点検しましょう。
- 側部の被覆資材が巻き上げ装置により開閉できるものについては、開いてしまわないように装置を固定しましょう。
- 換気扇の点検をし、施設をできる限り密閉した後、強風の間、換気扇を回すようにしましょう。

③おすすめ資材

《病害の蔓延を防ぐ》

商品名：アフエットフロアブル（殺菌剤、普通物）500cc：9,820円（税込）、100cc：2,010円（税込）

発病前から発病初期の予防的散布が効果的。また、孢子形成阻害作用が強く、二次感染の防止も期待できる。

※適用作物、適用病害、使用方法等は農薬のラベルを確認してください。

《樹勢回復・品質保持に》

商品名：ホストップ（液肥、N：P：K=0：25：20）500ml：2,420円（税込）

リン酸とカリウムに特化した液体肥料。株張り、分けつ、着花（着果）品質の向上、抵抗力増進等の効果あり。

1000倍に薄めて葉面散布。農薬との混用は可能。ただし、酸性のためアルカリ系資材（石灰硫黄剤、銅剤）との混用は避ける。



JA兵庫六甲のホームページにカラーで掲載しています。

HPアドレス[<http://www.jarokko.or.jp/> 農業情報→極めようセンターだより→より検索下さい]

お問い合わせはJA兵庫六甲 お近くの営農支援センター・阪神農業改良普及センターまで

野菜病害虫発生予察情報

第8号

発行：阪神地区営農振興協議会 農業技術分科会 南部分科会

調査日

平成30年8月23日(木)

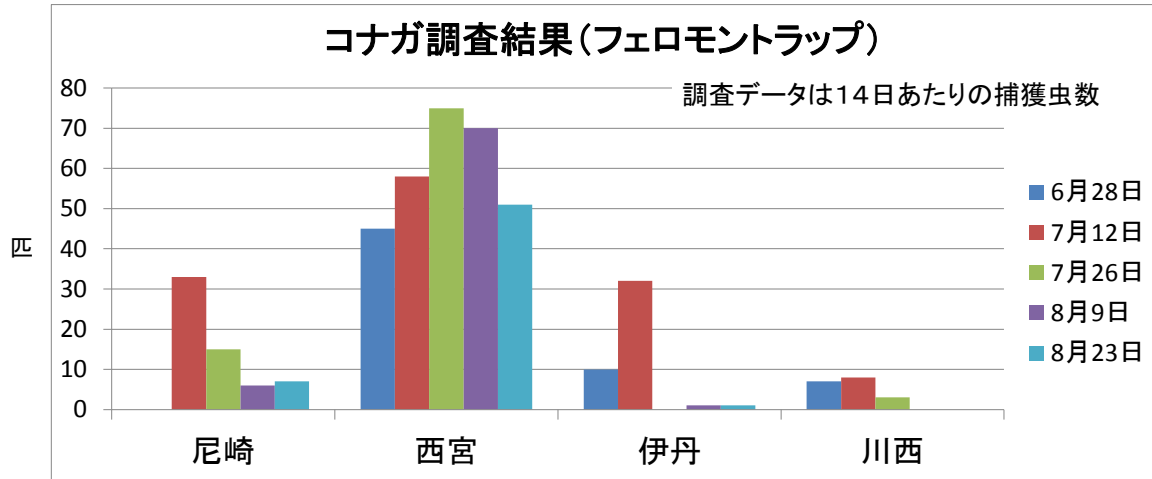
調査地区

尼崎・西宮・伊丹・川西

台風後の病害虫発生に注意してください。

巡回調査の結果、前回に引き続きコマツナでハイマダラノメイガ（ダイコンシンクイムシ）の発生及び被害が多く見られました。コナガのトラップの捕獲虫数は減少傾向ですが、西宮ではまだ捕獲虫数が多いので、今後も被害が出るおそれがあります。ハスモンヨトウのトラップ調査結果では、西宮・尼崎で14日間に100頭をこえる飛び込みが見られたので、9月上旬から被害に注意して下さい。

台風20号が通過しましたが、まだまだ気温の高い日が続き、害虫被害も多く見られます。圃場をしっかりと観察し、早期発見による早期防除をこころがけて下さい。



品目	発生病害虫	薬剤名	希釈倍数・使用量	使用時期	使用回数
ナス	ハダニ類	コテツフロアブル（劇）	2000倍	収穫前日	4回以内
コマツナ	ハイマダラノメイガ	スピノエース顆粒水和剤	2500~5000倍	収穫14日前	2回以内
	コナガ・キスジノミハムシ	アニキ乳剤	1000~2000倍	収穫前日	3回以内
シロナ	ハイマダラノメイガ	アフファーム乳剤	1000~2000倍	収穫7日前	3回以内

※ 必ず農薬のラベルを確認してから使用基準を守って使用するようにしましょう

今後の注目病害虫 ハイマダラノメイガ

〈生態と被害〉

ハイマダラノメイガは、ダイコン、ハクサイなどのアブラナ科の新芽や柔らかい葉で発生します。1齢幼虫は直ちに新芽内部に潜り食害するため、初期防除が重要です。



ハイマダラノメイガ幼虫

〈防除ポイント〉

キャベツやハクサイなどの苗を定植する前に、セルトレイにプレバゾンフロアブル5やベリマークSCなどの農薬を灌注処理すると効果的です。

その後、効果が切れる2~3週間後にアニキ乳剤やアフファーム乳剤など、灌注処理した農薬と系統の異なる農薬を散布しましょう。

なお、セルトレイに使用する農薬は、効果の面から灌注する薬液量を守るようにしてください。また、ほ場での農薬散布は、薬液が株の中心部や葉裏にもたっぴりかかるよう、丁寧に行ってください。



ハクサイの新芽を食害

JA兵庫六甲のホームページにカラーで掲載しています。

HPアドレス[<http://www.jarokko.or.jp/> 農業情報→極めよう→センターだより→より検索下さい]

お問い合わせはJA兵庫六甲 お近くの営農支援センター・阪神農業改良普及センターまで

野菜・水稲病害虫発生予察情報

第7号

発行：阪神地区営農振興協議会 農業技術分科会 南部分科会

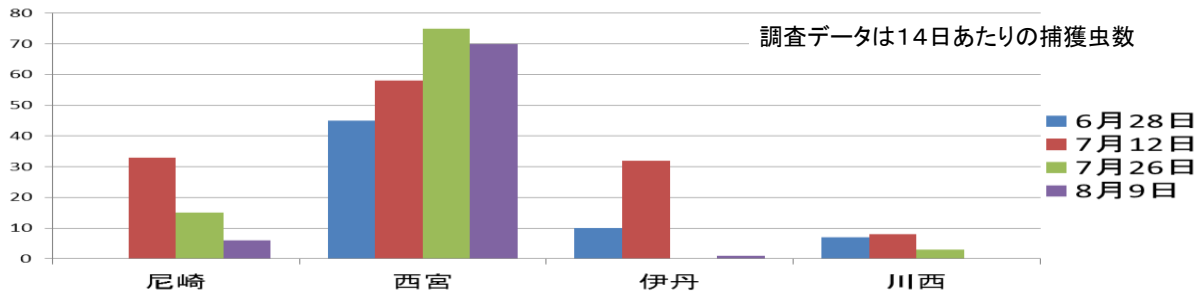
調査日 平成30年8月9日(木)

調査地区 尼崎・西宮・伊丹・川西

引き続き害虫の発生に注意してください。

巡回調査の結果、コマツナでハイマダラノメイガ（ダイコンシンクイムシ）の発生と被害が見られました。コナガはトラップ周辺にアブラナ科野菜の作付けが少なくなっている地点（西宮以外）では捕獲虫数が減っています。今回、ハスモンヨトウのトラップを設置しました。まだまだ気温の高い日が続きますので、圃場を巡回し、早期発見による早期防除をこころがけて下さい。

コナガ調査結果（フェロモントラップ）



品目	発生病害虫	薬剤名	希釈倍数・使用量	使用時期	使用回数
ナス	ハダニ類	コテツフロアブル（劇）	2000倍	収穫前日	4回以内
コマツナ	ハイマダラノメイガ	スピノエース顆粒水和剤	2500~5000倍	収穫14日前	2回以内
	コナガ	アニキ乳剤	1000~2000倍	収穫前日	3回以内
枝豆	カメムシ類	トレボン乳剤	1000倍	収穫14日前	2回以内
水稲	ウンカ類 ツマグロヨコバイ	なげこみトレボン ※湛水状態で使用	10個(500ml) / 10a	収穫21日前	1回
		スタークル粒剤 ※ひたひた水~3cm程度で散布	3Kg / 10a	収穫7日前	1回

※ 必ず農薬のラベルを確認してから使用基準を守って使用するようにならねよう

今後の注目病害虫 ハイマダラノメイガ

〈生態と被害〉

ハイマダラノメイガは、ダイコン、ハクサイなどの生長点を食害する。年4~6回発生し、乾燥状態の時や早まきのものに多発し、8~9月がもっとも多くなる。



ハイマダラノメイガ幼虫

〈防除ポイント〉

キャベツやハクサイなどの苗を定植する前に、セルトレーにプレバソフロアブル5やベリマークSCなどの農薬を灌注処理すると効果的です。

その後、効果が切れる2~3週間後にアニキ乳剤など、灌注処理した農薬と系統の異なる農薬を散布しましょう。

なお、セルトレーに使用する農薬は、効果の面から灌注する薬液量を守るようにしてください。

JA兵庫六甲のホームページにカラーで掲載しています。

HPアドレス[<http://www.jarokko.or.jp/> 農業情報→極めよう→センターだより→より検索下さい]

お問い合わせはJA兵庫六甲 お近くの営農支援センター・阪神農業改良普及センターまで

秋冬作用セル苗情報

秋冬作用のセル苗定植が始まります。まだまだ気温が高く乾燥が続く中、定植をしても絶対的に灌水量が足りないと、活着不良による初期生育に影響が出る恐れも考えられます。こまめな灌水を有効的な資材の活用をお願い致します。

【マルチを活用した対策】 こかげマルチ（白黒マルチ）は夏場の地温上昇を抑制し、雑草防除効果も兼ねた機能性マルチ。

【液肥を活用した対策】 4つの天然成分が植物に直接働きかけ、植物本来の力を活性化し、抵抗力をつける。1000倍に薄めて定植時にどぶづけ。農薬との混用は可能です。

ファイト・オ・ツー 100m l 1,220円（税込）

※お問い合わせご注文は、各営農支援センターまでお願い致します。

野菜病害虫発生予察情報

第6号

発行：阪神地区営農振興協議会 農業技術分科会 南部分科会

調査日

平成30年7月26日(木)

調査地区

尼崎・西宮・伊丹・川西

引き続き害虫に注意が必要です。

今回の調査では、ナス、ネギでアザミウマ類、ピーマンでハダニ類、コマツナでキスジノミハムシ・コナガ、葉ダイコンでコナガの発生がみられました。コナガトラップ調査では前回と比較して全体的に発生は増加傾向でした。

現在暑い日が続いています。遮光資材などを活用した高温対策を行い、作物が順調に生育できる環境づくりを心がけてください。また、作業者も高温条件下での長時間作業を避け、こまめに休憩を取り水分・塩分の補給を行うよう心がけてください。

調査地点での発生病害虫と防除薬剤

品目	発生病害虫	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数
ナス	アザミウマ類	ディアナSC	2,500~5,000倍	収穫前日まで	2回以内
ネギ					
ピーマン	ハダニ類	ダニトロンフロアブル	1,000~2,000倍	収穫前日まで	3回以内
コマツナ	キスジノミハムシ	アニキ乳剤	1,000~2,000倍	収穫前日まで	3回以内
	コナガ				
葉ダイコン	コナガ	ゼンターリ顆粒水和剤	1,000~2,000倍	収穫前日まで	—

※ 必ず農薬のラベルを確認してから使用基準を守って使用するようにならしてください。

今後の注目病害虫 ハイマダラノメイガ

〈生態と被害〉

ハイマダラノメイガ(ダイコンシンクイムシ)は、一般に高温少雨の条件で多く発生し、キャベツやハクサイ、ダイコンなどの生長点を食害します。発芽直後の被害は欠株となり、本葉3~4枚頃の加害では生長が止まり奇形株となります。

〈防除ポイント〉

7月下旬から発生が多くなるので、幼虫の発生状況に注意しましょう。キャベツやハクサイなどの苗を定植する前に、セルトレーにプレバソンフロアブル5やベリマークSCなどの農薬を灌注処理すると効果的です。

その後、効果が切れる2~3週間後にアニキ乳剤など、灌注処理した農薬と系統の異なる農薬を散布しましょう。



ハイマダラノメイガ幼虫



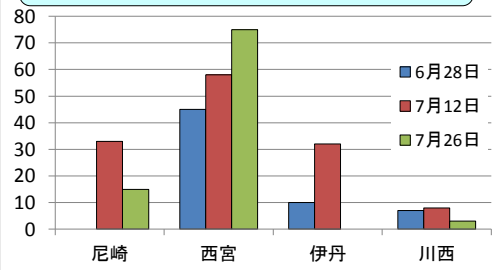
ハイマダラノメイガ成虫



ハイマダラノメイガ幼虫による被害

コナガ調査結果(フェロモントラップ)

調査データは14日あたりの捕獲頭数



高温・少雨の気象条件における今後の対策について

- ①かん水は、日中の高温時を避け、早朝または夕方に実施しましょう。
- ②ビニールハウスでは、ハウス内の温度を下げ、果実の日焼けや葉焼けを防止するため、遮光資材等を使用しましょう。
- ③セル育苗は、培土が少なく乾燥しやすいので、日中高温時は寒冷紗等の被覆資材や換気により温度上昇を抑制するとともに、かん水の不足がないようこまめに苗の観察を行いましょう。
- ④セル苗等の定植後は、手かん水あるいはかん水チューブ等を設置し十分にかん水しましょう。定植以降も高温乾燥が続く場合は、活着を促進させるためのかん水を行いましょう。
- ⑤乾燥による生理障害(チップバーン、尻腐れ果など)を防止するため、カルシウム剤等の葉面散布を行いましょう。
- ⑥ねぎでは、軟腐病が発生するおそれがあるので、畝間かん水は控え、かん水チューブなどを利用しましょう。
- ⑦果菜類では、不良果の摘果、若どりを行い、着果負担の軽減を図るとともに、適切な施肥により樹勢維持に努めましょう。
- ⑧ハダニ類、アブラムシ類、うどんこ病など、高温乾燥時に発生が多くなる病害虫に十分注意し、適期防除を実施しましょう。

JA兵庫六甲のホームページにカラーで掲載しています。

HPアドレス[<http://www.jarokko.or.jp/> 農業情報→極めよう→センターだより→より検索下さい]

お問い合わせはJA兵庫六甲 お近くの営農支援センター・阪神農業改良普及センターまで

野菜病害虫発生予察情報

第5号

発行：阪神地区営農振興協議会 農業技術分科会 南部分科会

調査日

平成30年7月12日(木)

調査地区

尼崎・西宮・伊丹・川西

梅雨明け後の害虫に注意しましょう！

今回の調査では、ナスでアザミウマ類の発生、コマツナでキスジノミハムシの発生がみられました。ピーマンでも、ハダニ類やアザミウマ類の発生が見られました。コナガトラップ調査では全体的に発生は前回と比較し増加傾向でした。梅雨が明け、暑い日が続いています。遮光資材などを活用した高温対策を行い、作物が順調に生育できる環境づくりを心がけましょう。

なお、水稻については現在問題になっている病害虫の発生はありません。今後は中干し以降の水管理に留意して高温障害による未熟粒の発生軽減に努めるとともに、斑点米カメムシ対策のための防除を実施しましょう。

調査地点での発生病害虫と防除対策

品目	発生病害虫	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数
ナス	アザミウマ類	モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍~4,000倍	収穫前日まで	3回以内
コマツナ	キスジノミハムシ	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	収穫3日前まで	2回以内
ねぎ	ハモグリバエ類	プレバソンフロアブル5	2,000倍	収穫3日前まで	3回以内
ピーマン	ハダニ類	コテツフロアブル	2,000倍	収穫前日まで	2回以内

※ 必ず農薬のラベルを確認してから使用基準を守って使用するようにしましょう

今後の注目病害虫 ハダニ類

〈生態と被害〉

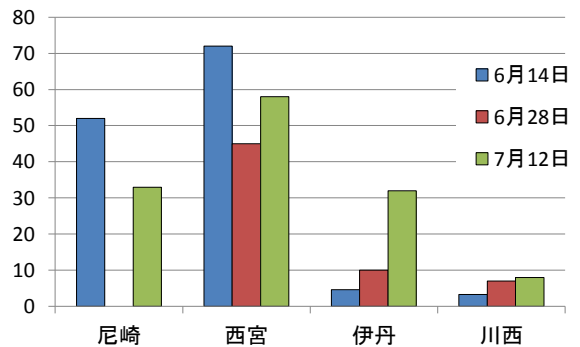
ハダニ類はほとんどの野菜・果樹に寄生します。高温と乾燥を好み葉裏に発生して吸汁します。初めに白色または褐色の斑点ができ、被害が進むと葉が黄化し落葉します。病気との区別は葉裏にハダニ類が発生しているかを確認し区別できます。

〈防除ポイント〉

ハダニ類は雑草にも発生するため、圃場周りに雑草を生やさないようにしてください。また、ハダニ類の被害があった古葉や下葉を処理してから薬剤散布を行ってください。

コナガ調査結果(フェロモントラップ)

調査データは14日あたりの捕獲頭数



野菜の降雨後の対策について

今回の局地的な豪雨により、畑に水が溜まりトマトの根腐れなどの多大な被害が確認されました。降雨後にしっかりと殺菌剤(アフェットフロアブル・ランマンフロアブル・ダコニール1000等)・殺虫剤・液肥を散布することで被害の軽減に努めてください。降雨後は畦畔が崩れやすくなりますので散布の際には十分注意してください。

〈露地野菜〉

- ①ほ場に雨水が停滞する場合は早急にほ場の排水に努めてください。
- ②作物の回復のために液肥の葉面散布をしてください。
- ③病害虫発生の予防のために登録農薬の散布をお願いします。
- ④生育初期に被害を受けた場合は予備苗への植え替えや再度播種を行い、被害の軽減に努めてください。

〈施設野菜〉

- ①施設が破損した場合、早急に実態を把握し復旧に努めてください。
- ②施設園芸共済等に加入している場合は、事故後現地確認のため農業共済組合へ速やかに連絡してください。
- ③被害が大きくない場合でも施設の点検を行ってください。
- ④病害虫発生の予防のために登録農薬の散布をお願いします。

JA兵庫六甲のホームページにカラーで掲載しています。

HPアドレス【 <http://www.jarokko.or.jp/> 農業情報→極めよう→センターだより→より検索下さい】

お問い合わせはJA兵庫六甲 お近くの営農支援センターまたは阪神農業改良普及センターまで

野菜病害虫発生予察情報

第4号

発行：阪神地区営農振興協議会 農業技術分科会

調査日

平成30年6月28日(木)

調査地区

尼崎・西宮・伊丹・川西

梅雨明け後の害虫に注意しましょう！

今回の調査では、ハウストマトでうどんこ病の発生、キュウリでアザミウマ類の発生がみられました。露地の葉物野菜でも、アザミウマやキスジノミハムシの食害が見られました。コナガトラップ調査では全体的に発生は減少傾向でした。今後、梅雨が明け晴れの日が続くと、アザミウマ類、アブラムシ類、ヨトウムシ、ハダニ類などの害虫の発生が増加すると予想されますので、引き続きご注意ください。

調査地点での発生病害虫と防除対策

品目	発生病害虫	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数
キュウリ	アザミウマ類	モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍~4,000倍	収穫前日まで	3回以内
トマト	うどんこ病	アフェットフロアブル	2,000倍~4,000倍	収穫前日まで	3回以内
ナス	オオタバコガ	プレバソンフロアブル5	2,000倍	収穫前日まで	2回以内
コマツナ	キスジノミハムシ	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	収穫3日前まで	2回以内
ねぎ	アザミウマ類				

※ 必ず農薬のラベルを確認してから使用基準を守って使用するようにしましょう

今後の注目病害虫

タバコガ

〈生態と被害〉

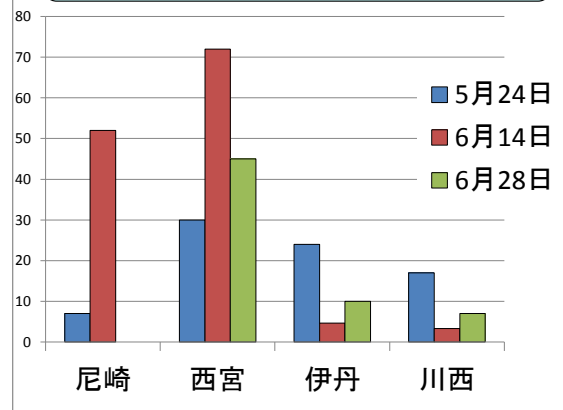
年に2~3回発生、蛹の状態越冬する。幼虫は葉も食害するが、トマトやピーマンの果実も食害するため果実に丸い小孔があき、腐敗したり、落果したりする。

〈防除ポイント〉

被害果は放置せず摘みとって処理する。
幼虫の食害が見られたら、孵化幼虫を対象に防除を行う。

コナガ調査結果(フェロモントラップ)

(調査データは14日あたりの捕獲頭数)



野菜の梅雨明け後の栽培管理について

梅雨が明けると天候も安定し、晴天・高温となり土壌が乾燥した状態が続きます。梅雨時期には簡単に吸水できた作物も環境の急変にさらされます。この時期を上手く乗り切るため、下記の栽培管理を実践しましょう。

①梅雨明け後の灌水は遅れずに

土質にもよりますが、晴天日が続くと急激に土壌水分が失われます。早めに灌水作業を実施しましょう。

②雑草の吸水力に注意

除草するかもしくは、雑草を短く刈り込みましょう。ほ場が乾燥している時に除草を兼ねて、通路などの表面を2~4cm程度軽く起こすと土壌の毛細管現象が切れ、土壌の乾燥を軽くすることができます。

③大雨に備えて排水対策を行いましょう

近年は、ゲリラ豪雨による農作物の被害が目立っています。早めの排水対策やほ場準備を心がけてください。

JA兵庫六甲のホームページにカラーで掲載しています。

HPアドレス[<http://www.jarokko.or.jp/> 農業情報→極めよう→センターだより→より検索下さい]

お問い合わせはJA兵庫六甲 お近くの営農支援センターまたは 阪神農業改良普及センター

野菜病害虫発生予察情報

第3号

発行：阪神地区営農振興協議会 農業技術分科会 南部分科会

調査日

平成30年6月14日(木)

調査地区

伊丹・尼崎・西宮南部・川西南部

梅雨時期の病気拡大に注意

今回の調査では、施設トマト・きゅうりではうどんこ病の発生が見られました。また、ハダニ類、アザミウマ類の発生もコナガラップは、尼崎市、西宮市で多い傾向です。今後、梅雨によるくもりや雨の日が続く予想で、病害の発生拡大にも注意が必要です。夏野菜の収穫が始まっている時期ですので、農薬の使用時期をしっかりと確認して使用してください。

調査地点での発生結果と防除対策

品目	発生病害虫	調査地点での発生状況	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数
トマト	うどんこ病	中	アフエットフロアブル	2,000~4,000倍 100~300L/10a	収穫前日まで	3回以内
		中				
キュウリ	ハダニ類	多	アーデント水和剤	1,000倍 100~300L/10a	収穫前日まで	4回以内
	アザミウマ類	多	スタークル顆粒水和剤	2,000倍 100~300L/10a	収穫前日まで	2回以内
青ネギ		中				
	疫病	少	アリエッティ水和剤	800倍 100~300L/10a	収穫3日前まで	3回以内
スイートコーン	アワヨトウ	少	トレボン乳剤	1,000倍 100~300L/10a	収穫7日前まで	4回以内

今後の注目病害虫 ハダニ類

ハダニ類について

〈症状〉

・葉裏に成虫・幼虫が発生して汁を吸うため、始めに葉に白い斑点が現れ、被害が進むと葉が黄化し、落葉する。病害と間違いやすいが、葉裏には虫がいるので区別できる。

〈虫の特徴・発生要因〉

・畑の雑草で春から秋まで10回以上発生する。キュウリ・トマトなど、さまざまな野菜や花で発生する。

〈対策〉

・ハダニ類は雑草にも発生し、除草剤の散布直後に発生するが多い。除草剤を使わず、黒や銀色のポリフィルムを畝面や畝間に敷いて雑草を生やさないようにする。

・下葉、古葉を整理して薬剤散布を行う。



肥料価格が7月から上がります！

肥料価格改定時期である「6月1日」に肥料は値上がりしますが、

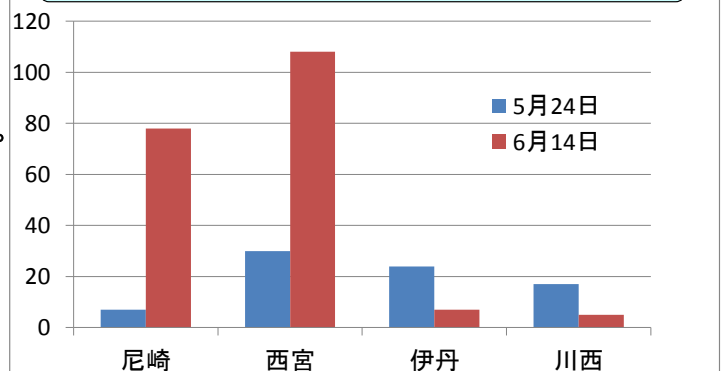
JA兵庫六甲では1カ月価格を据え置き「7月1日」から価格改定を行います。

肥料の購入はお早めにまとめて購入してください。

肥料価格の値上げを受けて

今年も「農家応援キャンペーン」を実施します！！

コナガ調査結果(フェロモントラップ)



JA兵庫六甲のホームページにカラーで掲載させていただいております。

HPアドレス【 <http://www.jarokko.or.jp/> 農業情報→極めよう→センターだより→より検索下さい】

お問い合わせはJA兵庫六甲 お近くの営農支援センター または 阪神農業改良普及センターまで

野菜病害虫発生予察情報

第2号

発行：阪神地区営農振興協議会 農業技術分科会 南部分科会

調査日 平成30年5月24日(木)

調査地区 伊丹・尼崎・西宮南部・川西南部

害虫多発！梅雨の病気発生にも注意

今回の調査では、葉物類・果菜類ともにアザミウマ類（スリップス類）の被害が多くみられました。アブラムシやハモグリバエ類も発生しています。注意してください。また、梅雨入り後の高温・多湿で発生する病気にも注意が必要です。なお、高温時に農薬を使用すると薬害を起こす場合があるので、早朝や夕方涼しい時間帯に散布しましょう。

調査地点での発生結果と防除対策

品目	発生病害虫	調査地点での発生状況	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数
コマツナ	コナガ	中	プレバソフフロアブル5	2000倍	収穫前日まで	2回以内
キャベツ		少				3回以内
ミズナ	ハモグリバエ類	微	アニキ乳剤	1000 ~2000倍		3回以内
エダマメ	アブラムシ類	微	スタークル顆粒水溶剤	2000倍	収穫7日前まで	2回以内
キュウリ	アザミウマ類	中			収穫前日まで	
青ネギ		少			収穫3日前まで	

今後の注目病害虫 アザミウマ類

アザミウマ類について

〈症状〉

- ・成幼虫がネギやトマト・きゅうりなどに寄生し、葉の表層をなめるように加害する。このため、食害された箇所は色が抜けて白くなり、光が当たると銀色に見える「シルバリング」症状を呈する。果菜類では、吸汁による葉の萎縮のほか、果実表面を加害し、商品価値を下げる。

〈虫の特徴・発生要因〉

- ・非常に小さく細いため、よく観察しないと見えにくい。確認が難しい場合は、紙の上で葉や花をたたくと虫が落下する。
- ・気温が高く、乾燥が続くと発生が多くみられる。

〈対策〉

- ・多発すると防除が難しいため、早めの防除を心がける。薬剤はローテーション散布を行う。
- ・周辺雑草にも広く生育するため、ほ場環境を清潔にする。



肥料価格が7月から上がります！

肥料価格改定時期である「6月1日」に肥料は値上がりしますが、JA兵庫六甲では1カ月価格を据え置き「7月1日」から価格改定を行います。肥料の購入はお早めにまとめて購入してください。

肥料価格の値上げを受けて

今年も「農家応援キャンペーン」を実施します！！！！

○ストロングバランス：石灰＋微量元素＋酸度調整機能を持つ肥料

○エコレット858・266：堆肥を含んだ新型肥料 8-5-8 12-6-6

JA兵庫六甲のホームページにカラーで掲載させていただいております。

HPアドレス【 <http://www.jarokko.or.jp/> 農業情報→極めよう→センターだより→より検索下さい】

お問い合わせはJA兵庫六甲 お近くの営農支援センター または 阪神農業改良普及センターまで

野菜病害虫発生予察情報

第1号

発行：阪神地区営農振興協議会 農業技術分科会 南部分科会

調査日

平成30年5月10日(木)

調査地区

伊丹・尼崎・西宮南部・川西南部

気温の上昇に伴う病害虫の発生に注意！

今回の現地調査では、青ネギへのアザミウマの食害痕、コマツナへのコナガ・ヨトウムシ類の食害痕、白さび病が確認されました。今後、気温の上昇に伴い、病害虫の発生が増加する可能性がありますので、圃場内をよく観察し、早期防除に努めましょう。また、急な大雨・突風に備え、果菜類への支柱の設置・排水対策も実施しましょう。

調査地点での発生結果と防除対策

品目	発生病害虫	調査地点での発生状況	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数
コマツナ	コナガ	中	プレバソフフロアブル5	2000倍	収穫前日まで	2回以内
	ヨトウムシ類	今後注意	スピノエース顆粒水剤	2500~5000倍	収穫14日前まで	2回以内
	白さび病	今後注意	ランマンフロアブル	2000倍	収穫3日前まで	3回以内
青ネギ	アザミウマ類	少	スタークル顆粒水剤	2000倍	収穫3日前まで	2回以内
	ハモグリバエ類		アニキ乳剤	1000倍	収穫3日前まで	3回以内

今後の注目病害虫 コナガ・白さび病

コナガについて

〈症状〉

- 成虫は前翅長6~7.5mm、成熟幼虫は10mm内外。
- 幼虫が新芽、葉を食害する。幼虫は葉裏から葉表の表皮を残して食害するので、食害部は透けた状態になる。

〈虫の特徴・発生生態〉

- 周年発生するが春季、秋季の発生が多い。

〈対策〉

- 薬剤防除を行う。
- 交信攪乱剤（フェロモン）を使用する。
- 施設では防虫網を張り成虫の飛来を防止する。



コナガの幼虫
葉の表皮を残して食害するのが特徴的

白さび病について

〈症状〉

- コマツナ、カブ、ハクサイなどのあぶらな科野菜の地上部（葉、葉柄、莖、花）に発生する。
- 葉でははじめ退色した部分が点在し、やがて右写真のように乳白色の不整形の病斑となる。

〈病害の特徴・発生生態〉

- 全国至るところに発生が見られ、暖地では、11月上旬~3月下旬にかけて発生する。
- 感染から病徴が現れる期間（潜伏期間）は5~7日間である。
- 降雨の多い低温の年には発生が多い。
- チッソ質肥料を多く施用して軟弱な生育をした場合、発生が多くみられ、まん延しやすい。

〈対策〉

- 発病を認めたら早めに薬剤を散布する。被害株を抜き取り、ほ場外にもち出す。
- 常発地では、あぶらな科野菜の栽培を避けて輪作する。



コマツナの葉裏

JA兵庫六甲のホームページにカラーで掲載させていただいております。

HPアドレス【 <http://www.jarokko.or.jp/> 農業情報→極めよう→センターだより→より検索下さい】

お問い合わせはJA兵庫六甲 お近くの営農支援センター または 阪神農業改良普及センターまで